

商品名 パルクス注10 μ g 医薬品基本情報

薬効	2190 その他の循環器官用薬	一般名	アルプロスタジル注射液
英名	Palux	剤型	注射液
薬価	1612.00	規格	10 μ g 2mL 1管
メーカー	大正製薬	毒劇区分	(劇)

パルクス注10 μ gの効能・効果

(バージャー病、閉塞性動脈硬化症、慢性動脈閉塞症)の(安静時疼痛、四肢潰瘍)の改善、(進行性全身性硬化症、全身性エリテマトーデス)の皮膚潰瘍の改善、糖尿病の皮膚潰瘍の改善、振動病の末梢血行障害の自覚症状の改善、振動病の(運動機能障害、神経障害、末梢循環障害)の回復、動脈管依存性先天性心疾患の動脈管の開存、経上腸間膜動脈性門脈造影の造影能の改善

パルクス注10 μ gの使用制限等

1. 重篤な心不全、喀血、出血、消化管出血、頭蓋内出血、本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 肝硬変、心不全<重篤な心不全を除く>、眼圧亢進、緑内障、胃潰瘍又はその既往、間質性肺炎、出血傾向、重度食道静脈瘤、腎不全	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

パルクス注10 μ gの副作用等

1. 無呼吸発作	記載場所	重大な副作用
2. ショック、アナフィラキシー、蕁麻疹、喉頭浮腫、呼吸困難、チアノーゼ、血圧低下、一過性意識消失、心不全、心不全増強、肺水腫、胸水、動悸、胸苦しさ、浮腫、間質性肺炎、間質性肺炎増悪、発熱、咳嗽、胸部X線異常、心筋梗塞、胸痛、胸部圧迫感、心電図異常、脳出血、消化管出血、無顆粒球症、白血球減少、血小板減少、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、 γ -GTP上昇、肝機能障害、黄疸	記載場所	重大な副作用
	頻度	頻度不明
3. 口内炎、アフタ、血圧上昇、咳嗽、呼吸困難、喘息、悪寒、振戦、痙攣、発汗、腎不全増悪、出血傾向、出血、鼻出血、眼底出血、結膜出血、皮下出血、血尿、低ナトリウム血症、四肢腫脹	記載場所	その他の副作用
	頻度	頻度不明
4. 嘔気、腹痛、嘔吐、下痢、腹部膨満感、腹部不快感、血圧降下、血管炎、顔面潮紅、胸部絞扼感、発熱、頭痛、発疹、皮膚そう痒感、血管痛、発赤、熱感、低クロール血症、低カルシウム血症、高脂血症	記載場所	その他の副作用
	頻度	5%未満

5. 食欲不振、便秘、口腔腫脹感、発赤、胸痛、動悸、頻脈、好酸球増多、めまい、倦怠感、しびれ、しびれ感、蕁麻疹、こわばり、そう痒感、四肢疼痛、四肢疼痛増強、気分不良、浮腫、視力低下、脱毛

記載場所	その他の副作用
頻度	0.1%未満

6. 心不全、肺水腫、胸水

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

7. 無呼吸発作、子宮収縮作用、副作用、長管骨膜肥厚、脳梗塞

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

パルクス注10μgの相互作用

1. 薬剤名等：抗凝血剤

発現事象	出血傾向の増強
理由・原因	本剤は血小板凝集抑制作用を有するため、これらの薬剤との併用によりその作用を増強

投与条件	-
指示	注意

2. 薬剤名等：血小板機能を抑制する薬剤

発現事象	出血傾向の増強
理由・原因	本剤は血小板凝集抑制作用を有するため、これらの薬剤との併用によりその作用を増強

投与条件	-
指示	注意

3. 薬剤名等：血栓溶解剤

発現事象	出血傾向の増強
理由・原因	本剤は血小板凝集抑制作用を有するため、これらの薬剤との併用によりその作用を増強

投与条件	-
指示	注意

パルクス注10μgの配合変化

1. 薬剤名等：輸液以外の他の薬剤

発現事象	-
理由・原因	-

投与条件	-
指示	禁止

2. 薬剤名等：血漿増量剤

発現事象	-
理由・原因	-

投与条件	-
指示	禁止

3. 薬剤名等：造影剤

発現事象	凝集、クリーミング
------	-----------

投与条件	経上腸間膜動脈 性門脈造影
------	------------------

理由・原因	-
-------	---

指示	禁止
----	----



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.